

## 毎年7月28日は 世界肝炎デーです

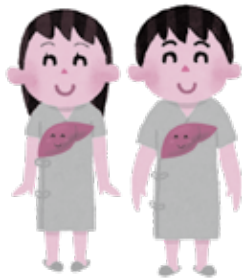
毎年7月28日は世界肝炎デーと定められており、ウイルス性肝炎のまん延防止および感染者への差別解消などを目的とした啓発活動が行われています。

ウイルス性肝炎は、放置すると、肝硬変や肝臓がんへと進行します。ぜひこの機会に検診を受けましょう。詳しくは、市ホームページまたはすこやかセンターだよりをご覧ください。

**受診期限** 令和4年2月28日(月)まで

**対**昭和57年3月31日までに生まれた人で、これまで市の肝炎ウイルス検診を受けたことがない人

**¥**1,000円(ただし65歳以上の人、令和4年3月31日時点で40歳、45歳、50歳、55歳、60歳の人、生活保護世帯または世帯全員が市民税非課税の人は無料)



ホームページ

**問**すこやか生活課

**☎**・**☎**(581)0201 **☎**(581)1628

## 家族介護教室を 開催します

**時**8月19日～9月16日の毎週木曜日午前10時～11時30分

**所**すこやかセンター 3階 講習室

**内**介護保険制度や移動・排せつ介助方法、認知症についてなど介護に役立つ知識を学びます。詳しくは、下記へお問い合わせください。

**対**市内在住で、現在介護をしている、または介護に興味のある人

**定**各20人程度(1回のみ参加可)

**¥**無料

**申**7月20日(火)から電話で下記へ申し込み。



**問**中部地区地域包括支援センター

**☎**(584)5519 **☎**(584)5363

佐川美術館  
アートコラム⑦

## 芸術家の腕の見せ所

学芸員 佐川美術館  
相田 莉央



佐川美術館でご紹介している佐藤忠良の作品は、大きく2種類に分けられます。それは佐藤の真髓ともいえるブロンズ彫刻と、もう一つは鉛筆や水彩で描かれた素描作品です。素描とはモチーフの特徴や輪郭を捉えることを目的として描かれたデッサンのことですが、なぜ彫刻家のデッサンを展示するのか、不思議に思われるかもしれません。実は素描は芸術家としての力量が顕著に表れる、ごまかしがきかない作品なのです。

佐藤の素描には人物のデッサンもあれば、彫刻作品のテーマとは直結しない木や花といった自然を対象としたものもあります。土をこねる傍ら、デッサンを日課としていた彼は、日常的にさまざまなもの、特に自然をデッサンすることの重要性を語っています。

例えば皆さんがデッサンを描くときでしょう。大切なのは対象に似せて描くことだと思われる人も多いのではないのでしょうか。しかし佐藤は、デッサンとは対象を観察して、その内部までも探ることに意味があるといっています。

植物や人間をはじめ生物は、生きる上で必要な機能が細部に備わり、外見におのおの個性が表れます。デッサンには、対象がなぜその形なのかを探る目と、またそれを描く技術も必要です。デッサンを繰り返したからこそ、佐藤の素描作品には一本一本の線に生命感が宿っているのです。

完成品の二次的なイメージが強い素描ですが、経験の積み重ねとセンスが表れる、実は芸術家の腕の見せ所です。

走り描きのようなスケッチでも、対象の特徴を瞬時に捉える観察眼と技術がなければ形はくずれてしまいます。シンプルな描写力のみで勝負する分、作家の裸に最も近い部分なのかもしれません。

\*開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話(☎(585)7800)でお問い合わせください。